寫眞週報

内閣情報部編輯

六月八日・第十七號・十セン

赤十字のもと

徐州放送

赤十字のもと輝く白衣

博愛の表徴、赤十字旗かゞ飜に、ひるがへつてからもう六十年あまり、その間いくたびか戰爭の試練を經ながら、日本赤十字の尊い使命を、か弱い肩に擔つた〝白衣の天使〟たちは、世界赤十字事業の上に、その無高くも雄々しい姿をくつきりと浮き上らせてきた

この度の事變にも、大陸に派遣された赤十字救護看護婦は、實に三千余名を數へ、砲火炸裂する戰場で、或ひは波浪さかまく大海原の病院船勤務に、艱味方わけへだてなく、〝博愛〟の一念に燃えて看護のまことを捧げてゐる。

たゞ赤十字愛に殉じよう、といふその凛々しい覺悟は、忠勇無比の皇軍精神と何の劣るところがあらうか。

〝愛の大和魂〟を純白の衣に包んで戰時救護にいそしむ赤十字看護婦の一時一刻の生活にこそ、輝く日本婦道のすべてがある。

健康は船の旅から

瀬戸内海へ
南紀州へ
へ

大阪商船

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

出征から歸還まで

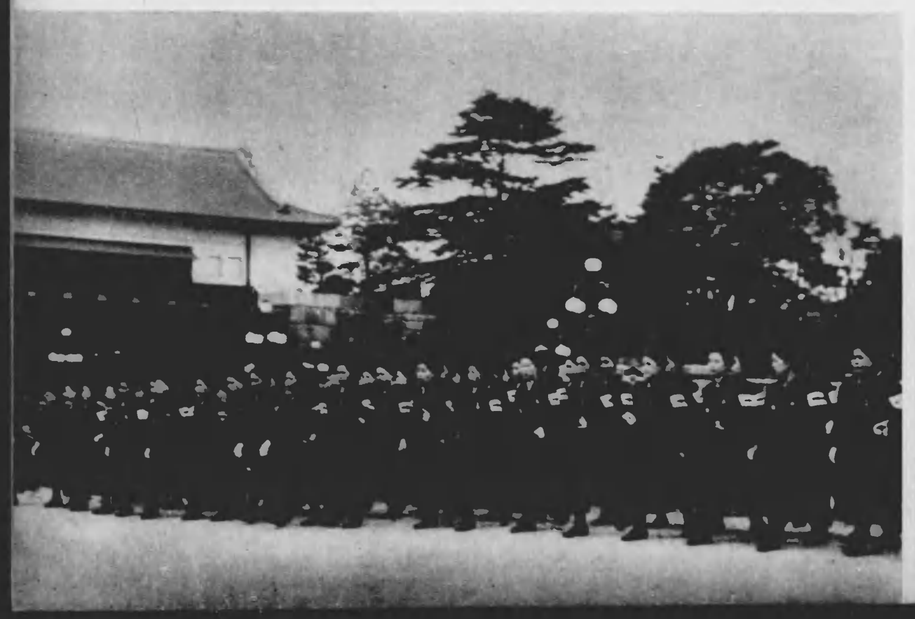
⇧ 味方の兵の上のみか
言も通はぬあだ迄も
いと懇ろに看護する
心の色は赤十字
—婦人従軍事蹟五篇—

⇩ あらゆる危險、困苦
とたたかひ野戰病院、
病院船勤務に一身を捧
げて幾月、再び宮城を
拜せるとは何人が豫期
してゐたらう。
萬感交々、歸還報告
を終へて、硝煙に染ま
つた赤十字腕章もたふ
とく、堂々宮城前を行
進する救護看護婦班。

⇧ つひに召集令は下つた。
屋上に祀る皇太神宮、明治神宮、そして、
護國の女神となつた先覺英靈二十七柱も合祀
される靖國神社の社前に祈願をこめ、神酒を
戴けば、えらばれた大和撫子の感激が胸にたぎる。

⇩ ——彼女も結よひに
惱まされ、食事も攝れ
ず込み上げてくる嘔吐
を手巾で押へながら、
甲斐甲斐しく働いてく
れる。夜半にふと目覺
めベットに腰かけて青
白い顏を電燈に照らさ
れてゐる白衣の姿を見
ると、一碎崇高の念に
うたれて覺えず涙がこ
ぼれた……。
（岡本軍醫少將病院船
手記より）

⇩ 海ゆかば級一線描き
たる病院船のいさを立
てなむ！一同方一西月被
赤崎是幸さん作
うら若き女の身に浴
びる、出征萬歳！の聲
も、赤十字看護婦なれ
ばこそ。
この日の歡喜、この
日の光榮を、征衣の胸
にはつて、博愛の戰士
達はいまぞ住みなれた
病院を出でたつ。



傷兵の母

（父母はいかにお在す……）
手紙を書くいとまなく數旬——
看護の合間に牧容患者の右手となり、ふるさとへのたよりを書けば、いつか自らも思郷の心、こまごまとそのまゝ文字に綴つてゆく。

すやすやと靜かなねいき聞きつつもなほ覗きみる病める勇士を——
第一六八救護班廣野琴江さん作

傷の痛みに惱んでゐた戰傷兵達もやうやく安らかな眠りを續れるやうになつた。姓のん〳〵と明けた朝、乙女心は、交替のかへりにそつと花の水をかへてまわる。

「見違へる程よくなつたわ。」と、けふも元氣づけながら、二人で、まどころを繃帶に卷けば、戰傷兵も「うん、もうすぐ歩けるやうになるさ。」と、うれしくも、痛みをこらへてくれる。

傷癒える悅びを音譜にのせて、アツコディオンを彈く白衣の勇士
樂譜をもつて、ちつと流れでるメロディーに耳を傾けてゐると、傷兵の歡喜が、そのまゝ胸にかよつてくる。

「松葉杖の具合はどうだい？」
「ウム、貴樣も、車で診療にゆけるやうになつたか？」
勇士の交す會話の明るさ。
胸にこみあげるいひしれぬ感激を一杯の笑ひにまぎらして、窓にあふれる陽ざしの中に筆を止める。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

養心寮

⇧ お裁縫も女學校だけでは十分でないといふので、養成部に入るとどんな着物でも縫へるやう、講師が一人一人手をとつて教へる。夕食後、間もなくくる一年一週間の自習休みを樂しみに、乙女心はせつせと晴着を縫ふ。

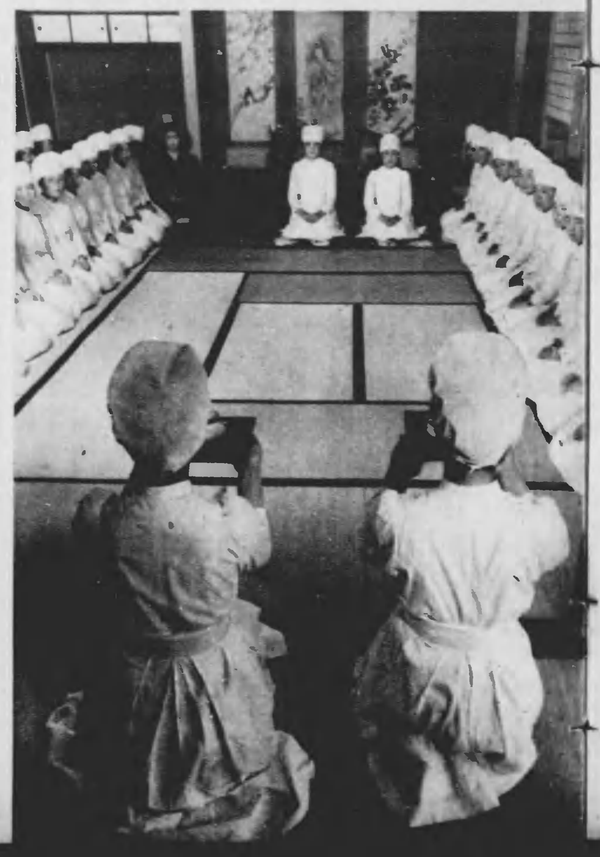
その端麗な姿勢にあふれる弓道の精神。

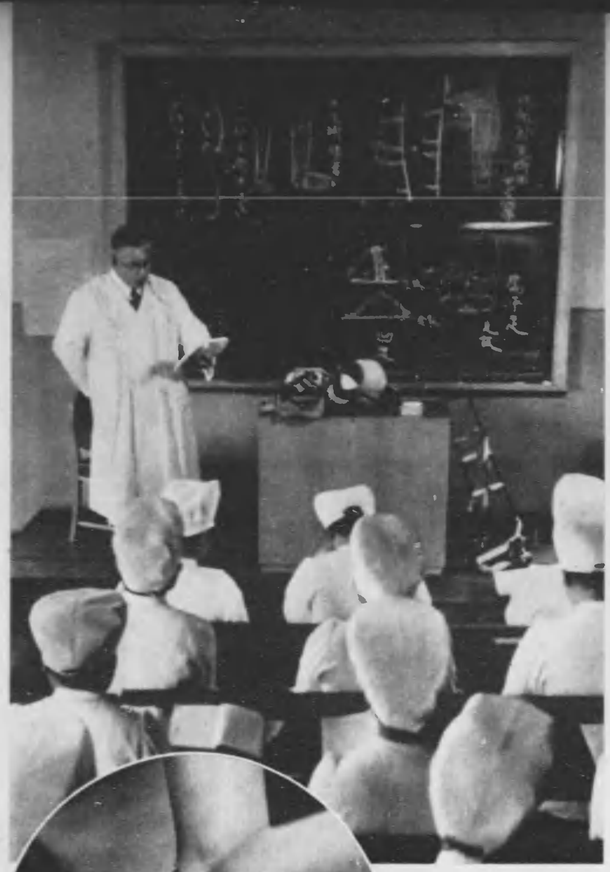
⇩ 放たれた矢は、統一された精神となつて、發止と的を射ぬく。彼女達の體儀正しい身體のとなし、落着きは、たへざる弓道への精進から生れてゐる。

この夜更け病舍をみとる巡回のみとりめの靴はかそけく響く

——七七藏區阿美さん作——

七時の交替時間、ひき上げる學友と輪儀正しい默禮かはし、つらい徹夜實習へと長い廊下をいそぐ氣にかかるは、傷の痛みに惱む戰傷勇士、熱の下らぬ一般患者——





手は心、乙女たち、氣高く生きて、何んといふ、きよらかな美しさであらう。光であらはれてゐるやうだ、この手。

入學すると、世界一の設備を持つる實習室で、さつそく人形や繃帶を對手に基本演習が始まる。

——數布とり換への演習。

先生は、養成部卒業後津田英學塾に給費生として學び看護學研究のため英國セント・トーマス病院に派遣された井上夏枝看護婦長。

⇧ 日本赤十字看護婦は又立派な日本婦人でなければならない。

病む人へのしとやかなかしづき、大和撫子としてはづかしからぬ動作、心構へを、お作法の時間で養ふ。

かく育つ

副監督　山本や を女史(下右)

日本赤十字社病院長
軍醫中將
醫學博士　藤波　正氏(上)

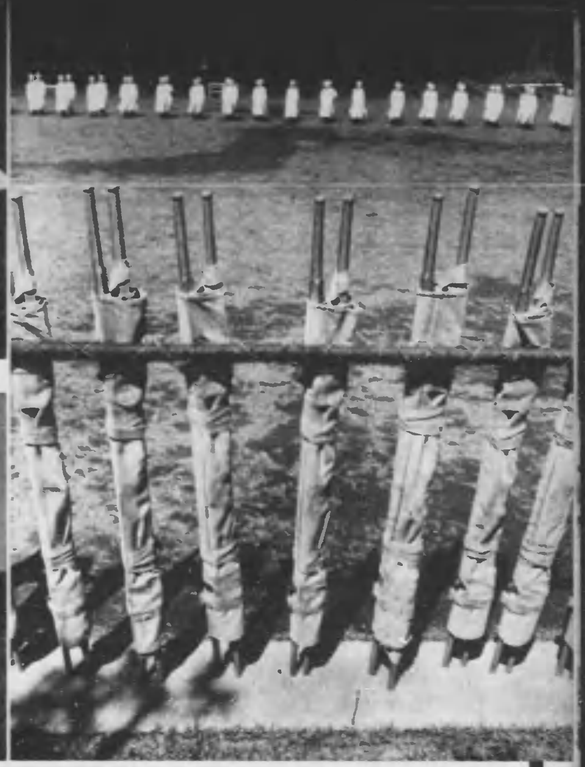
養成部長　崗岡道明氏(下左)

⇧ 明るい敎室で養成部一年生の繃帶學講義。

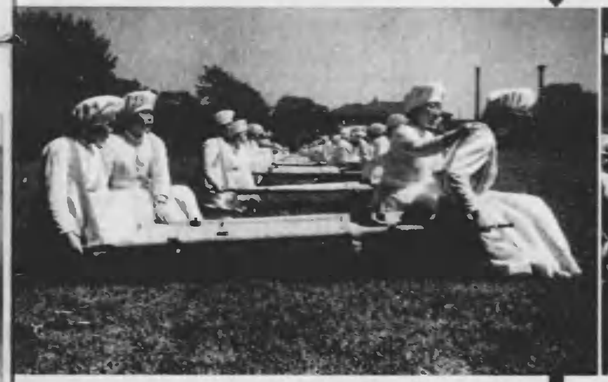
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

つくれ擔架

火の命令を待つ



廣濶彈雨の戰野を驅けめぐる患者運搬法は養成生一部一年生の主要學科である



右さげ擔架

號令一下四人一組と二人組りなとり擔架を作る編成の伍

この衣ゲに白衣の天使

持ち場につけ駈け

卒業後十二ケ年の應召義務年限もとうに過ぎて、今は看護婦會などを開き、赤十字の精神を巷に生かしてゐる看護婦同方會員達も、銃後の御奉公を忘れまじと、奉仕看護に暇間に病院へやつてくる。

入れ歯の口から漏れる昔話は、日清の思ひ出か、日露の役か？夕食後養成生徒に聞まれて數談の一とき。

宿直、ただ聽へるは、傷兵の安らかな寢息と左手のセコンドを刻む時計の音、「異狀なし」と書く日誌の筆先はいつか聽えて來る寢息に合せて呼吸を數へホツと安心する。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

手術洗手の用意――

このふくよかな腕に、おし氣もなくフクシン（赤インキの一種）を塗りこめ、雑菌一つとゞめぬまで洗ひ落しなほ、指先を培養基で試驗してみる。多くの患者を救ふ聖なる腕は、こうして、きよらかに磨かれてゆく。

きたへる日本精神――

講堂一ぱいに、緊張の氣合をひゞかして、薙刀體操に全力をうちこむ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

徐州放送

徐州はつひに陥ちた。
日本放送協會はこの職古未曾有の大會戰の狀況を銃後に傳へやうと、河西アナウンサーを現地に派遣し、凡ゆる技術的困難を克服して見事世界最初の現地放送に成功した。
こゝに五月十九日より一週間にわたる現地放送の速記録を携げて皇軍の勞苦と戰績と、生々しい戰場を再び銃後に描かう。

五月十九日——

故國日本の皆樣、和國われらが日本の皆樣、われ〳〵のマイクは現在非常なる困難と危險を冒して○○戰線に出動中であります。（中略）

徐州城を中心とする附近廣大なる戰場は東西南北到るところ火災を起し、本日午前中より炎々と燃えつゞけ、猛烈なる戰場氣分は到るところに展開されて居ります。殊に徐州の街は西側より南方方面にかけて火勢猛烈を極め、立ち昇る煙は戰場を蔽ひ、この完全なる陷落は九分通り完成したと思はれますが、困難なる市街戰と、今なほ殘回を目さす支那軍の襲撃に、徐州全市は砲聲、銃聲、戰爭の響等、彼我入り亂れての戰闘は繼續され、その壯烈さは筆紙に盡し得ず、目を蔽ふものが處所に展開されて居ります。徐州城と壁各所に關てられました日章旗は砲煙彈雨の間に、關てられ、或は倒れ、逃げつ、隱れつ、悲壯と、勇壯と、萬感と、無念とが入亂れて市街戰をつゞけました。

徐州の街を遠く去る西側、南側の部落々々は敵が五年の日子を費して築きあげた堅陣部落でもありますが、今や數時間燃えつゞけ、部落を根城とした敵部隊は或は殲滅され、或は辛ふじて遁れ、一大會戰の終結は、死物狂ひの裡に依然として繼續中であります。午後五時頃城壁各所に日章旗翻翻とひるがへるや、遠く徐州城東或は東南方の敵陣地、敵部落よりは旺んに砲撃を加へ、數時間前とは完全に攻守を代へての對陣であります。

徐州の街には住民は全部姿を消し、唯一人の支那人の姿もありません。街中バリケード、鐵條網妨害物等山と積まれ、わが軍の前進は極めて困難でありますが、北上軍、南下軍の意氣物凄く、困難と悲壯の文字は全く日本語から抹殺されて居ります。

○○における河西アナウンサー

ます。この數々たる一大修羅場の中に赤黒い火炎が只今めら〳〵と立ち昇り、戰爭の響を加へてこの世の地獄、否、勝利の地獄を完全に展開して居ります。

故國日本の皆樣、和國日本の各位、徐州會戰の一大殲滅戰はいよ〳〵これからです。敵は徐州城は棄てましたが、徐州の東南方に集結、最後の一騎討ちは愈今明日に迫りました。（中略）徐州を中心に陸海空線で我を遮へた敵の總數は實に八十ケ師、六十萬の大軍であります。この六十萬の敵大軍の大殲滅戰はいよ〳〵こゝ數日中に徐州城陷落以上の大殲滅となつて展開されるでせう。孫々たる砂塵の中、人も馬も皆大自然の戰場は泥だらけです。唯決死あるのみ！　それよりも、朝飯も、晝飯も、夕飯も恐らくは食はないであらう徐州城攻撃のわが精鋭部隊將士諸君に握飯一つと水一杯を與へたい。

銃後の日本國民の皆樣、今晩から明日拂曉にかけまして徐州會戰の最も壯烈なる肉彈戰と殲滅戰が展開されることをはつきり胸に畳んで下さい。

只今入りました情報によれば、徐州の東北方面の敵は左往右往、目下東南方に向ひ潰走中なり、九里山、覇王山、驚縣も火災に包まれ、大運河には三つの橋が日本軍によつて架けられ、南下軍は續々橋を渡つて敗走の敵を追撃中なり、敵の飛行機は全く影を見せず、寺内最高指揮官はこの日飛行機にて徐州城上空高く飛び來たり、前線を視察し、通信筒をわが各部隊本部に投下「戰ひは今後にあり、一層の努力を望む」と空より激勵、追撃戰に指揮をかけ、今なほ到る所激戰と肉彈戰は繼續に、或は丘の上に、或は部落に、麥畑の中に目を蔽ふばかり展開され、一大修羅場はなほ數日間、夜晝の境もなく續けられて參ります。

（中略）

敵の退却せる戰線を觀察すれば、徐州を中心とする附近四里四方の敵陣は到る所堅固を極め、壕は網の目の如く廻りめぐらされ、われ〳〵素人には結んど一歩も前進は出來ません。部落々々はこれ皆一大トーチカとも云ふべき設備を施し、吾吾が部落にとび込むことなど思ひもよりません。丘といふ丘は全部トーチカと化し、（中略）一寸一尺の土地も皆敵の防禦陣地を形成して居ります。危險この上もなく、恐らく世界戰史に曾てない狐陣地であります。（中略）今や敗走したこの陣地内にはたゞ手榴彈や地雷等が散亂し、物皆目を蔽ふても餘りあるものゝみであります。

私は今この戰線觀察の報告を終るに當りましても、この追撃戰に、世界の何れの國の軍隊もなし得ないであらう勇敢なる日本の軍隊に新たな驚嘆の眸を見張り、全身たゞ硬直して頭の下るのみであります。（中略）

徐州陷落！　徐州陷落！　しかし、戰後の皆樣

渡河進撃のどよめきはまだ早い。勝利の喜びはまだ早い。一大殲滅戰は今後にあります。徐州五十萬の大敵を殲滅するのはこれからです。わが南下、北上兩軍の包圍陣は縮少されました。この殲滅戰こそ最後の大勝利であることを忘れないで下さい。日本の皆樣、今夜は徹夜で我々日本の大勝利を祈禱して下さい。（後略）

五月二十日——

（前略）今晩は關封方面に於て展開されました空中戰況の狀況を最初に御傳へ申上げます。

昨夜も御知らせ致しました通り、蔣介石直系の第八十七、八十八の兩師、並びに湯恩伯軍の三十六師の三ケ師は昨夜より今曉にかけましてなほ殘敵を掃して頑強に抵抗するを以てわが○○部隊は關封の東方に於て午前七時相對陣しました。

この時突如、西の空より敵の戰闘機、高度約二千五百米より三千米を以て十機來襲、わが地上部隊を爆撃せんとする狀況にありました。わが地上部隊は前面に蔣介石直系の精鋭部隊を控へ、空中戰封へ向け進む南下軍の黄河渡河

次から次へ無敵空軍徐州を爆撃す

やがて大空には舞ひ戻つた二機、或は三機集まり、悠々たる編隊飛行をつゞけてわが○○地上部隊の上を旋回しつゝ姿を消して行きました。この間の戰闘は僅かに十五分。わが地上部隊の全員は思はず我を忘れて拍手喝采、萬歳の聲は戰場に滿きました。

かくて、意氣大いに揚つた地上部隊は全戰に敵を破つて關封附近重要據點を占領しましたことは既に皆樣御承知のこと、存じます。

この陸の荒鷲部隊は實にわが精鋭寺西部隊長の率ひる部隊であることは、あとになつて判りました。一機も漏さず十機を部下に撃墜し、われに一機の損害もなし。（中略）この報告を全國の皆樣にお傳へする機會を得ましたことは私の最も喜びとする所であります。全國の皆樣、陸の荒鷲部隊寺西部隊を祝福して下さい。

更に話を轉じて徐州方面の戰況を申上げます。皇軍部隊は徐州城に續々入城しました。わが精鋭部隊によつて治安維持に努めて居りますが、要所々々收走の支那軍に破壞されて、眼を蔽ふものがあります。街の四つ角には殆んど全部バリケードが築され、その附近に散亂する敵兵の死體も相當の數に上つて居ります。鐵砲、機關銃、鐵兜等は屋内に、街の中に、畑の中に無數に發見される有樣です。燃え上る火炎は未だに諸方面に燻をあげて悲慘なる戰の跡を遺憾なく發揮してゐます。

しかし祖國日本の皆樣、徐州の街は今完全にわが手に落ちましたが、徐州會戰は今たは猛烈に續行中であります。一大殲滅戰は最後の一兵も殘すまじと、決死の戰ひは今拂曉より十數時間に亘つて今もなほ繼續されてゐます。

徐州の街を棄てた敵の大軍は東へ東へ、或は東南方へと移動して居ります。飛行機上より見れば、既に統制を失つたであらう敵の大部隊が右往左往する有樣が折柄の快晴に空中より明瞭に見ることが出來ます。わが地上部隊は東西南北より完全なる包圍隊形をとりの、全部隊これ又完全なる速撃をとり、無援なる前進作戰をとつてゐる模樣であります。更に東へ進軍しましたわが部隊は全部大運河を渡河して戰線は刻一刻と縮少されつゝあります。

これに懲じ、わが空中部隊は凡そ十五分置き毎に次から次へと入れ替り、立ち昇り、敵部隊の上空に勇姿を現はし、的確なる爆撃を加へ、敵兵も馬も大砲も猛烈なる砂塵と共に空中高く吹き上げてゐます。前線の各所に人間までも拔巻を起してゐる感じであります。（中略）勝利へ、勝利への優越感かつて體驗したことのない強い刺戟となつて盛上つて參ります。爆音に驚かされた敵の部隊は一瞬にバラ〳〵ッと蜘蛛の子を散らす如く四方八方にとび去りますが、わが飛行機の姿が消え去るやおそと一列縱隊を作り、東へ東へ、或は東南方へと蟻巡蛇の列を作つて進んで行きます。（中略）

本日午前中にはわが包圍隊形は半徑八里でありました。現在恐らく半徑三、四里に縮少され、今晩關夜に乘じて逃れる敵をおさへれば、明朝あた

大徐河渡河部隊、皇軍を満喫、主人の手綱に導かれ一騎に河を渡る

りわれ等は完全に敵数十萬の大敵を殲滅するものと思はれます。（中略）

東京よりの電報によりますれば徐州の陥落に際し、旗行列や提灯行列をやめて神社佛閣に皇軍勇士の武運長久を祈らるゝ由をきゝまして前線の将兵諸士は心より感謝し、一層の奮戦を誓つて居ります。このことは特に全國の皆様にお傳へ致します。

本日只今○○戦線は曇一星の影一つなし。（後略）

五月二十一日

（前略）徐州を中心とする附近一帯の戦場は本日快晴、爆々たる日光を浴びて一大殲滅戦と、敗走の敵に対する追撃戦は今なほ徐州の南方津浦線附近に於て猛烈に行はれてゐます。昨日に山に部落に想像以上の困難と苦痛を超えて展開されて居ります。殲戦、追撃の場所は刻々と移動してゐます。敵が敗走に際し火を放つた部落も、曠野も、又次々に移動し、火の絶間もなく、徐州は陥落より既に三日目に達するも一大修羅場は依然として各所にくり展げられて居ります。（中略）

全國の皆様、我々放送陣か日夜凡ゆる労苦と困難なる作業に従事して居りますことは申し上げる迄もありませんが、徐州陥落の報に接しました十九日、我々放送陣の技術員半塚青年が勇躍○○戦線を出発、生々しい戦場の道なき道を超え、畑をとび越え、橋なき河を渡河しつゝ一路徐州へ〳〵と急行、徒歩を以て十數里日夜の別なき強行軍をつゞけ、今日無事徐州に入城、直ちに放送準備に着手せりとの快報に接しました。（中略）

日下の徐州の街には電報とか電線もなく、放送の不便は云ふまでもありませんが、不日徐州より電波をお送りし、皆様に放送しうることを確信致します。（後略）

五月二十二日

（前略）陥落間もない徐州の街は要所々々破壊された所極めて多く、崩れ落ちた煉瓦の塊が道路上に散乱し、焼け残る柱、窓硝子の破片等は到る所に充満するといふ驚異大震災の一部を思はせるものがあります。（中略）

敵潰走する支那兵の残置はまだ全部片つけ得ず、或は銃を捨て、或は銃劍を振りかざしたまゝ眠るが如く、或は折重なつて激戦の跡をまざ〳〵と思はせる情景を呈して居ります。而も何處から出て来たか、徐州の住民は既に戦線に戻り、我が家へ我が家へと立戻り、（中略）續々と列を作つて僅かばかりの家財、泥にまみれた荷物、警備の日本兵を恐れながらも、しほしほとわが家に急ぐ支那の住民を考へますと、戦ひに敗れた國民の悲惨に暫し涙ぐまざるを得ません。

全國の皆様、戦ひに敗れてはなりません。戦争には如何なる犠牲を拂つても勝たなければなりません。現實にこの悲惨を見まする時、唯勝利あるのみ、現地勝利はよりお知らせすることか間遠つて居りませうか。私は断じて間違ひなしと深く信じてお傳へ致します。

尚、現在の徐州の街には食料品は殆んどありません。僅かに概算致しましたものだけが毎日の食料品となり、その不自由なことは言語に絶し、入城の軍隊は互ひに食料を分け合ひまして、晝飯も夕飯もありません。食糧にありついた時、ありついた場所で食事を摂るといふ有様であります。若しこの徐州の街に全國から皆様の慰問袋が殺到するならばわが兵隊さんはどんなに喜ぶことでありませう。現在の兵隊さんは食糧と水とがこの世に於ける最大の希望であり、最後の喜びであることを遥か戦線より全國の皆様に御傳へ致します。今からでも決して遅くはありません。徐州戦線へ慰問袋を忘れないで下さい。

占領した徐州の街は今なほ電燈もありません。水道もありません。ガスもありません。全部破壊されて、その恢復には日下の所まるで見當がつきません。依つて夜になるや、徐州の街は闇黒の街、靈の街、阿修羅の街と申上げても決して過言ではないでせう。（中略）夜は勿論わが軍隊により内地に於ける戒厳令の如く警戒厳重を極め、午後七時以後はわが軍隊の鐵蹄、銃剣それ以外には通行もなく死んだ街の雰囲気を十分に發揮して居ります。たま〳〵警戒の為に動いて銃撃の響、機関銃の響、無気味と云ふよりは恐怖、戦慄の夜です。しかし、皇軍の治安維持は刻一刻と死の街を静謐しつゝあることを申上げます。わが徐州における放送陣もやがて築く成立を告げて電波の偉力を十分に發揮しうること、確信致します（中略）

なほ徐州會戦に際しまして、両軍の大激戦は刻刻と日本内地の皆様に報道されて居りますが、大會戦の裏面には、両國共必死の電波戦、即ちラヂオの戦ひが目覚ましく展開されて居りますことは皆様の想像以上でございます。

支那側は徐州の大敗にも拘らず、今なほ毎晩の如くラヂオ放送をもつて支那人をあざむき、人心の動揺を防ぐことに大童であります。即ち徐州會戦に於て支那軍はまだ全く包囲されてはゐない。決戦を避けて遊撃戦法に移るの目的であると宣傳したり、やがては百萬の大軍、専門學校生徒が戦線に向つて進撃し、長期戦不可能なる日本に對して最後の勝利をうるなどと盛んに毎日宣傳放送をやつて居ります。これに對して我々放送陣は徐州の街を北に去る約十二里、例の台兒莊から四里の處迄に於きまして盛んに活躍し、飽くまで支那側の逆宣傳と、デマニュースの粉砕に満身の努力を拂つて放送戦線に戦ひつゝあることをお知らせ致します。

私共が居ります○○戦線の上空、天候は晴れ、降るやうな星を戴き、元氣旺盛心氣明朗なり（後略）

五月二十三日——（空中戦戦記略）

五月二十四日

（前略）戦場は連日灼きつけるやうな暑さのため

皇軍将士の活躍は想像以上の労苦と努力とつゞけられて居ります。殊に水の不足、食料の不足では戦場とは云ひながら實に唯氣の毒に堪えない次第であります。この超人的な労苦を物ともせず、次から次へと輝かしい戦果は依然として續行されつゝあります。（中略）

内地の七時のニュースでも放送がありました通り、徐州の西、碾封は既に陥落し、碾封の北を流れる黄河の地點もわが軍の占領するところとなり東に逃げ込みました敵は袋の鼠となり、この碾封附近に於きましても又復一大殲滅戦が展開されて居ります。この碾封に於ける敵は将介石が最も大事にして居りました精鋭中の精鋭、第八十八、第四十六師等より成る七ヶ師、重砲、戦車を有する精鋭で、徐州の堅陣と共に将介石が最も期待する所と傳へられましたが、わが精鋭には徐州の陥落同様瞬時一瞬、死傷約三千を殘して潰滅し、わが皇軍の精華を世界に發揮するものと活氣を呈して居ります。（後略）

五月二十五日

故國日本の皆様、祖國日本の各位、○○戦線よりの放送第七日目を御送り致します。

戦線は相変らずの快晴づゝきで、本日の暑さの如きは日中百度に近く、第一線に活躍する将士の労苦は思ひ遣るものがあります。今日は内地では既に號外を以て報道されました南北兩最高指揮官の徐州會見の歴史的場面を御傳へ申上げます。（中略）

寺内最高指揮官の飛行機は爆撃を避へ、午前十時、わが○○部隊基地の地、○○飛行場へと低空飛行を開始しました。あゝ、目の前には畑最高指揮官の搭乗する飛行機が同じに所に着陸せんと低空飛行を試みてゐます。「おゝ、同時であつた。」讃嘆の別なくには洩れる言葉が歴史的會見の口火を切ります。

やがて畑最高指揮官の飛行機が滑るが如く着陸します。遅れること僅か二分、寺内最高指揮官の飛行機もろ〳〵と着陸して二台の飛行機がピタリと頭を並べます。兩飛行機より悠然と爆撃を随へて兩最高指揮官が降りて參りました。歩み寄る兩将軍の緊張の顔は一瞬にして喜びに變ります。（中略）幕僚の人々も一斉に相近つきます。「やあ御目出たう」「御苦労様」の交歓か、戦塵の如く私の耳にひゞきます。眺める私の眼には涙が浮んで來ます（中略）

やがて、兩将軍はじめ幕僚の人々は自動車に分つて飛行場東側に設けられました臨時野戦式場に向つて進行しました。野戦式場は大きなポプラの樹二本を背景としまして、五間に八間位の矩形の地に、白と黄色の幕を三方に張りめぐらし、小型の日章旗が多數掲げられ、その中にテーブルをしつらへテーブルの上にはビールと日本酒の一合瓶、鱒の果物と戦場氣分たつぷりの祝宴であります。大将は中央の左、畑大将は右にと立ち並び父次々に盛られての立食です。この式場を取り圍むものは警備の兵隊さんを除けば、大新聞社、同盟通信社記者とそのカメラマン、それに私たちの十數人に過ぎません。

かくて祝宴に先立ち、寺内最高指揮官の音頭により、遥か東方、東京二重橋の彼方を遙拜、その方向に向ひました上、天皇陛下萬歳の三唱が警高らかに叫はれ、徐州陥落の歓喜をつゞけてきます。新聞通信社のカメラはぐる〳〵と廻ります。早くも徐州の街にかけ込んで活躍をつゞけてゐます。聞通信社の諸君にも心からの敬意を表します。眞墨になつて、ほろ〳〵のシャツを着て唯一筋報道戦線に活躍するからこそ本當に偉大なる妻と感じさせられます。（中略）

かくて會見すれば、午前十一時半、寺内最高指揮官は畑最高指揮官と再び別れの挨拶を交し、寺内将軍が「では御機嫌よう。この上ともどうぞお身體を大切に、御機嫌よう」と名殘りを惜しみつゝ兩将軍はこゝに別れをつげ、寺内最高指揮官一同は又飛行機上の人となりやゝ遅れて畑最高指揮官の飛行機もやがて南へと姿を消して行きました。（中略）

次に徐州の街のその後の状況を申上げます。

度々申上げました通り、徐州の街はわが空陸の猛撃により、物凄く破壊され、全くの廃墟と化し電線は切断され、煉瓦は道路上に崩れ落ち（中略）まだ使用に堪える家は本當に數へる程しかなく、わか軍隊は破壊された家を應急に修理して住宅としてゐる有様であります。水に不自由するため将兵の労苦は氣の毒なほどで、街物を投入された井戸には赤い旗を立てゝ危険の知らせがしてあります。町の中央を流れる黄河は今や兵隊さん達の洗濯場で、行水を使つてゐる等、内地では到底考へられない想像以上の戦時苦行であります（中略）

内地の皆様に申上げたいことは、私が内地で想像して居りましたより余りにも困苦と疲労とに悩まされつゝある将兵に絶對の感謝を捧げることであり、この點は銃後の皆様に一層の御後援を切望するものであります。戦線にあるものにとりましては銃後國民の聲援こそ何物にも代へ難い最大の味方であることを強く御傳へ申上げます。

徐州は陥落しました（中略）しかし、長期戦はこれからです。軍隊も、銃後の皆様も、軍民協力一致、唯長期戦へ前進あるのみ。（中略）

五月十九日、徐州陥落の當日、○○戦線にマイクを移動致しましたこの戦線放送は本日寺内畑兩最高指揮官の歴史的會見の日を以て一先づ終了いたします。

内地日本の皆様御機嫌よう。左様なら。以上寺内最高指揮官の歴史的會見

送る大日本青少年獨逸派遣團

日本と獨逸とを青春で結ぐ青年日本の選士大日本青少年ドイツ派遣團一行三十名は、五月二十五日午後一時わが官民及び在京ドイツ人多數の盛んな見送りの中を東京驛終、晴れの壯途にのぼつた。

一行は朝比奈團長大日本聯合青年團の代表四名、大日本少年團聯盟の代表七名、帝國少年團協會の代表四名からなり、いづれも十七歳から二十五歳までの若人で、農業、學校教員の各五名をはじめ、工業勞働者三名、漁業、商業、酒造見習、木材業、農園員興銀業務課員各一名、殘りの六名が學生で、出身府縣も十九府縣にまたがり、年齢も大學卒業者から見ても、地域的な方面から見ても、この二十五名は眞に青年日本の代表といふことが出來やう。

交驩青少年團として盟邦に使する全事員は、その一擧手一投足にあつぱれ皇國日本の青年代表を示すためまづわが國の文化關係、産業、國防等についての理解を深めるとともに、ドイツの事情にも通じ、獨逸の一般情勢をも知つておくため、去る五月三日から約一箇月の豫定で日本青年館に合宿、講義に、ドイツ會話に、見學に、野外訓練に、行軍に嚴しい訓練が行はれた。

一方、ドイツからの派遣團ヒットラー・ユーゲント代表二十名も八月中旬來朝、約二ケ月にわたり日本各地を巡歴、わが青少年と交驩する豫定である。團員は獨逸の未來を双肩に擔ふ日獨青少年の固き握手が交されるとき兩國數千萬の若人はもとより、防共の聲ひゝも起き世界の平和はますます强められることであらう。

⇦「お父さん、お母さん行つてまゐります」
「日本人の偉さを見せて來るんだぞ」
「今度會ふときはもつと偉くなつて來るんですよ」
息子を送ります父母の言葉はわれら日本人のすべてが派遣團に送る言葉だ。

⇦見送りの在京ヒットラー・ユーゲント二十名。

⇦「それでは」「御機嫌よう」
朝比奈團長と、見送りの在京ヒットラー・ユーゲント代表シュルツェ氏は東京驛ホームに固い握手を交した。

⇦「天皇陛下萬歳！」
出發を前に遙かに宮城を拜し、往く若人、送る若人の聲は東京驛頭を壓かした。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

こゝに派遣團員の合宿訓練のうちの野營訓練を紹介しやう。一行は東京市外久米川の綠一色の武藏野を野營訓練場に選んだ。

初夏の陽は綠の林に燦々と降りそゝぐ。勞働奉仕訓練を終へた若人たちのシャベルの行進。軍事教練で鍛えあげた身だ。獨逸の友達に見せてもはづかしくないだけの訓練振りはもちろんと出來上つてゐる。

野營のうちでも一番樂しいものはキャンプ・ファイアーのひとときであらう。

空には降るやうな星のまたゝき地には赤々と燃え上る焚火、その焚火をかこんで、獨逸語會話の練習、獨逸の話、さてはヒットラー・ユーゲントの歌の合唱、若人の高らかな歌聲は武藏野の闇にこだまし、若き血は焚火とともにもえ上り、若き夢は流れる星を追よて未知の國にはせる。

武藏野のかなたに陽は落ちる。靈の聲も聞遠になつた林にコンコンと杭を打つ音があたりの靜寂を破る。

「ヒットラー・ユーゲントに負けないやうにうまく張らうぜ」

「よし來た」

樂しい今宵のキャンプを張るにも負けじ嫌ひの日本青少年の氣性が汗ばんだ腕にぐつと力を入れさせる。

大地を枕に、若人の夢はいづくにはせる。講義に聞いたベルリンの街か、ニュールンベルクの森か。

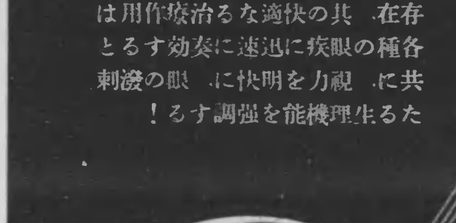
ペコ〳〵に空いた腹に、飯盒の飯の何といふ美味さ一本の蠟燭の灯がほのかに照し出す中にとけ合ふ友情の樂しさ。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

SMILE

的級一第の中藥科眼はルイマス
は用作療治るな適快の共 在存
とるす効奏に速迅に疾眼の種各
刺激の眼 に快明を力視 に共
た る生 る調強を能機理生 !

眼は生活感情の最も
尖鋭なる觸手だ!
流動し交錯し混迷する
現實相は強き眼によつて
のみ把握される!
スマイルの眼に榮光あれ



新人の眼科藥

ルイマス

總代理店　株式會社　玉置商店

要個
0.25
0.45
藥店にあり

讀者のカメラ

作品募集

寫眞募集規定

本誌は『寫眞報國』の一助にもと考へ、出來る限り紙面を開放し諸君のカメラを動員、優秀な技術を持つてゐる。題材は內外事、國策の宣傳に關するものならば何でもよい。例へば街にも田園にも、或は工場、家庭、學校など到る所に溢る銃後の緊張と、國民精神總動員風景、或は季節と從相の面白い組合せなどはどうでせう。一枚の寫眞でも數枚ひと組の組寫眞でもよく締切期日は決定せず、サイズはキャビネ判以上、特撰の分には薄謝又は記念品を贈呈し版權は當部に歸するものとす。

募作品は一切返却せず。

內閣情報部

⇦

寫しても空、起きても空 大空に憧ぶ

東京市　林　實二

東京機を乘つてくる風はもうすつかり夏だ、ゴワ〳〵した飛行服を着てゐると汗がいつぱい出てくる、飛行帽が重たい羽田飛行學校生は一心不亂。今は練習場でよ〳〵でも大空への抱負は大きい。

農體操

東京市　吉川一雄

土に生れ土に生きる農村の少女等が、一生身の守り心の守りたるは眞白に輝く一鍬の鍬。彼女等は此の鍬を持つて銃後の田畑を耕し、歸途を耕す。今ぞ生の號令のまにまに健兒操に、そしむ千葉縣銚我村の高等女學校生徒、而上にみなぎる眞劍な迫力に、明日の女性日本は托される。

女學校の步哨さん

千葉縣八日市場町　深田登美雄

非常時局下の緊張した氣持は、先づ服裝と態度から、といふので千葉縣八日市場町敬愛高等女學校では、上級生が校門に步哨に立つて登校生徒の服裝や態度に惡い所があれば注意しあつて直すやうにしてゐます。非常時を征服して、前進してゆからといふ國民精神總動員運動は職場にでも出來ることです。お互ひに身邊の些事手輕なことから始めませう。

今週のキヤメラ

表紙（仁と愛と）　土門　拳

赤十字のもと輝く白衣　陸軍省報道部　日本赤十字社　土門　拳

徐州放送　日本放送協會　同盟特派員

大日本青少年　特派員　土門　拳

獨逸派遣團（丸茂慎一）　寫眞募作品

寫眞週報（旬報）

昭和十三年六月八日印刷發行

編輯兼發行者　內閣情報部

印刷所　大日本印刷株式會社

印刷所　東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二番地

定價

一部　十錢

一ケ年（前金）四圓八十錢（外國郵便に依る場合は八圓九十錢）

一ケ年分未滿配送御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

申込所

寫眞週報配送部　東京市麹町區內幸町二ノ二〇　電話番町（33）五一五番　振替口座東京三五八〇〇番

全國各地官報販賣所　東都書籍株式會社

最寄書店・鬻書店　各地新聞販賣所　寫眞材料店

正誤

第十五號日華戰線の記事中「等數艘一港間」とあるは一等巡洋艦の誤りにつき訂正いたします。

寫眞週報
昭和十三年二月十二日　第三種郵便物認可　昭和十三年六月八日發行（毎週一回水曜日發行）　第十七號

日滿一如

躍進滿洲の實情認識は銃後國民刻下の急務なり

滿鐵鐵道總局

內地・朝鮮より
往復・回遊汽車賃
單獨　二割引
團體十人以上　三割引
團體二十人以上　五割引
學生團體　五割引以上

詳細は
滿鐵鮮滿案內へ
東京丸ビル
大阪堺筋
下關驛前
奉天
新京
北京
天津

（本書の大さは國定規格A4・「週報」倍判）